

経済・金融 フラッシュ

雇用統計 09年6月 ～雇用調整ペースが加速

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

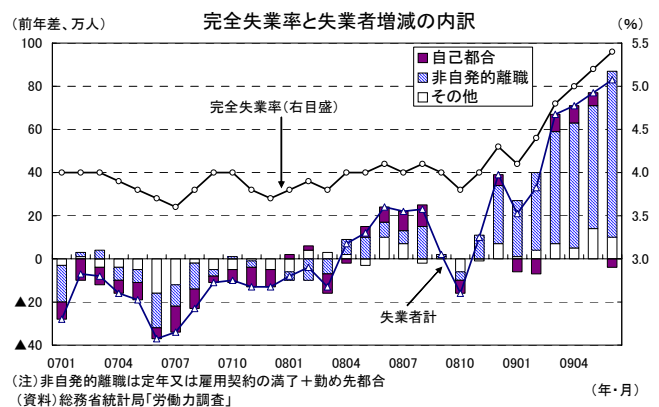
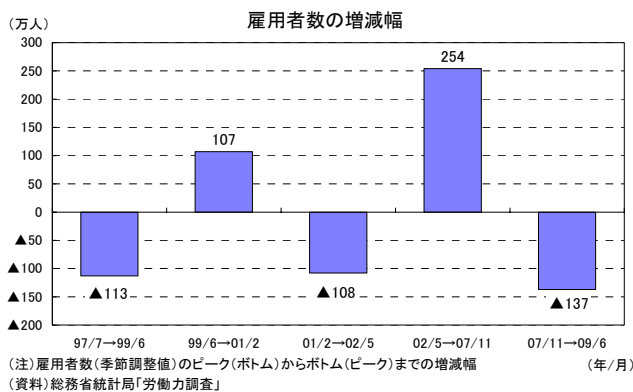
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 雇用者数の減少幅が過去最大に

総務省が7月31日に公表した労働力調査によると、6月の完全失業率は前月から0.2ポイント上昇し5.4%となった（ロイター事前予想：5.3%、当社予想は5.4%）。景気はすでに回復局面に入っているが、雇用調整のペースはここにきてむしろ加速している。失業率は景気の遅行指標であるため、当面は上昇傾向が続くことが見込まれる。過去最悪の5.5%を超えることはほぼ確実で、09年度中には6%台に達する可能性が高いだろう。

雇用者数は前年に比べ▲110万人の大幅減少となった（5月：同▲98万人）。季節調整済の雇用者数は5,413万人となり、ピーク時（07年11月の5,550万人）に比べて▲137万人の減少となった。ピーク時からの減少幅は、前回（ITバブル崩壊時後）、前々回（消費税率引き上げ）の雇用悪化局面を上回り、過去最大となっている。特に、年明け以降、雇用調整ペースは急加速しており、この半年間で124万人の雇用が失われた。

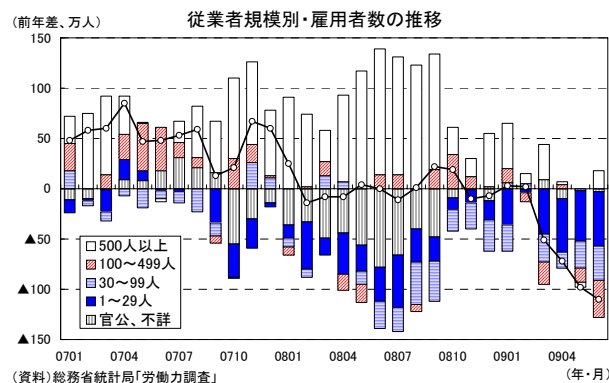
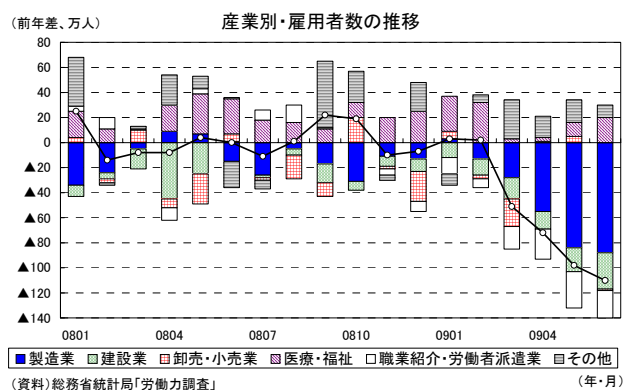
失業者数は348万人、前年に比べ83万人の増加となり、5月の77万人増から増加幅がさらに拡大した。失業者の内訳を求職理由別に見ると、非自発的な離職による者が前年に比べ77万人増（うち勤め都合が62万人増）、自己都合が4万人減となっており、失業者が急増するとともに、失業の中身も深刻化している。



雇用者数の内訳を産業別に見ると、鉱工業生産は持ち直しの動きが明確となっているが、製造業の雇用者数は、08年度末にかけての生産活動の大幅な落ち込みを反映し、前年に比べ▲88万人（5

月：同▲84万人減）と減少幅がさらに拡大した。雇用者数減少の8割が製造業によるものとなっている。派遣社員が含まれる職業紹介・労働者派遣業の雇用者数は前年に比べ▲22万人減と8ヵ月連続の減少となった（5月は▲29万人減）。

従業員規模別には、500人以上の大企業は前年に比べ18万人増（5月は▲5万人減）と増加に転じたが、499人以下の企業では大幅な減少が続いた。

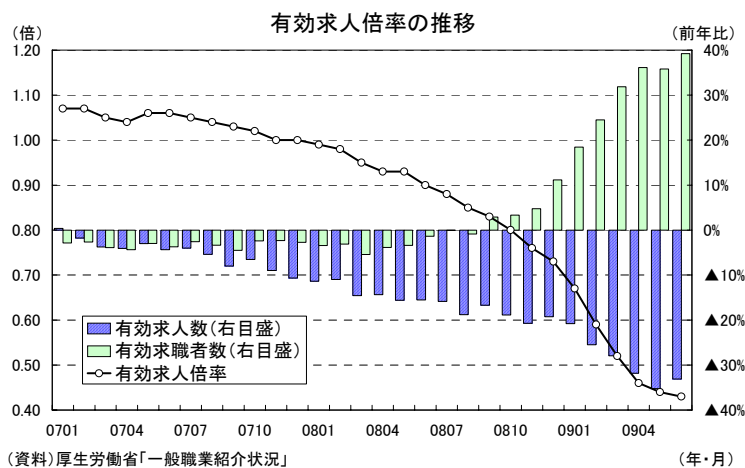


2. 有効求人倍率は過去最低を更新

厚生労働省が7月31日に公表した一般職業紹介状況によると、6月の有効求人倍率は前月から0.1ポイント低下の0.43倍となり、過去最低を更新した（ロイター事前予想：0.43倍、当社予想は0.42倍）。

失業者の増加を反映し、有効求職者数が前年比39.2%（5月：同35.8%）と伸びを高めるなか、有効求人数は前年比▲33.1%（5月：同▲35.2%）と大幅な減少が続いた。

有効求人倍率は低下傾向が続いているが、このところ低下ペースは若干緩やかとなっている。新規求人数は前月比4.2%と6ヵ月ぶりに増加し、有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は0.76倍（5月：0.75倍）と小幅ながら改善した。労働需給の悪化には歯止めがかかる兆しも見られる。



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。